



発行日：平成 29 年 12 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆第 45 回川部会WGを開催しました！

12月19日（火）に第45回川部会WGが開催されました。今回のWGでは、矢作ダム下流で実施された給砂実験と山部会と協働で取り組んでいる流域担い手づくり事例集の進捗状況について報告がありました。また、自己紹介の話題が発展して川の水質問題についても意見交換を行いました。



日 時：平成 29 年 12 月 19 日（火） 15:00～17:00  
会議場所：豊田市職員会館  
参加者：14名（事務局含む）

### ◆主な活動内容

#### 1. 本日の話し合いでわかったこと、決まったこと



##### ■矢作ダム下流での給砂実験について

豊橋河川事務所から矢作ダム下流で実施した給砂実験について、実験方法や当日の土砂投入状況についてビデオ映像を交えながらの報告があったほか、投入後の調査内容や実験後に生じた環境変化に関する概要説明がありました。

○実験実施日：平成29年10月23日 9：30～15：30

○実験方法：ダムからのピーク放流後にベルトコンベアによる土砂の投入

○実験に使用した土砂の量および代表粒径：1972.8m<sup>3</sup> d<sub>60</sub>＝約1.0mm

○土砂の流下状況：土砂投入開始後は流量も多く、左岸寄りを流下しながら土砂は拡散し、午後は流量が低減したこともあり濁りがやや中央を流下しました。

○実験に関する調査項目：河床の地形、河床表層のUAV撮影、河床材料調査、淵の堆積状況、植生域堆積状況などを実施予定です。

○実験前後の地形変化の速報：実験後に砂が堆積し、砂州が形成された箇所や植生の上に砂が堆積している箇所が確認されました。



##### ■流域担い手づくり事例集の進捗状況について

矢作川研究所の洲崎主任研究員から、取材対象団体と取材者の選任状況、事例集完成までのスケジュール報告のほか、次年度に開催予定の事例集交流会の紹介がありました。また、これまで取材が完了した団体については、取材をした出席者から概要報告がありました。

○事例集のタイトルは「流域担い手づくり事例集」とします（“再生”をカット）

○取材レポートの読み合わせ会を1月下旬に行います。

○来年度の事例集交流会を4月14日に佐久島で開催します。

○取材者からの報告では「見ると聞くとでは大違い、行って良かった」との感想を聞くことができました。



## 2.意見交換



### ●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(・意見 ▶回答)

- ・服部さんの自己紹介で川の生産性が低くなっているということについて、矢水協の天野さんも同じような意識を持っていた。矢作川河口に下水終末処理場では、これまでチッソ、リンをできるだけ除去して放流していたが、現在はリンを環境基準値の上限までに抑えて放流する試みを実施しているとのことである。(内田)
- ・チッソは生物濾過のため完全には除去できないが、リンは化学物質で除去するためゼロにすることができるが、リンを無くすのは生物生産性を低下させることにつながるのでよくない。先ほどの取組みはリンを環境基準の上限内にして放流することで、河口域の海域での生物資源の生産性の向上をねらいとしている。川でも同様に生物生産性が低下しており、栄養塩のバランスなど水質の問題が大きいと考えている。(服部)
- ・「川がやせている」というのは、リン、チッソなどの栄養塩がない、川に魚がいなくなった ということを表現している言葉になっている。(光岡)
- ・給砂実験で使用した土砂の化学的な分析は実施したか？(伊奈)
- ▶ 今回使用した土砂は矢作ダム流入部(水位変動)の干出する箇所採取した土砂であり、粒径区分で言えば基本的に“砂”に該当し、化学的な分析は実施していない。(事務局)
- ・実験に使った砂は栄養塩の観点からは全く効果がない、含まれていないと思う。(内田)
- ・堤体に近いところの落ち葉がたまっている土は有機物が多いかもしれないが、硫化水素も含んでいるので、危険である。人間が考えて調整すると自然のバランスを壊すことになるので、気を付けるべきである。(服部)
- ・家下川の生物量は昔と現在を比較するとどうか？ダムのある本川の生産量とダムのない支川の生産量がどうなのかわりたかった。(野田)
- ・昔はフナ、コイ、ナマズが非常に多く。今は外来種が増えるなど魚類相が変わってきた。(伊奈)
- ・現在は生産力が落ちたと考えてよさそうである、乙川や巴川なども同じ状況という認識でいる。個人的には農業、水田耕作がされなくなったのが影響しているのではないかと考えている。例人の土地利用、山村の生活スタイルが変わったことが川の水もかわったのではないかと思う。(野田)
- ・飯田市の賀流峡復活プロジェクトに取材をしてきた。天竜川の賀流峡が活動場所で、竹林を整備する取組みが実施されており。竹に関する商品を販売している。自分たちの足元をきれいにする活動が広がれば、自然と川全体がきれいになるという感じがした。(浅田)
- ・めえぷるファームに取材してきた。足助地区の山村部の現状が垣間見ることができた感じがする。個人的には取材によって、これからの山村づくりにヒントになることが得られたのと、山と川と海をどのようにつなげるかという脈絡がみえてきた。あと数回は訪れたい。(野田)
- ・矢水協の事務局長である天野さんに内藤連三について取材してきた。予定は午前中のみであったが話が盛り上がり、2時近くまで実施していた。内藤連三の人柄が良く分かり、とても勉強になった。(内田)
- ・取材が一過性のものでなく、継続して訪れてもらえるとよい。(洲崎)

### ●振り返り

**よかったと思うこと：**議題にはなかったが、川と海の水質の問題を議論することができた／自己紹介で近況、他部会に参加した内容の紹介等を混ぜた話が出され、本日の話し合いのテーマの導入となり関連にもなり、次の話し合いの展開が広がった

**よくなかったと思うこと：**今回のテーマに関して、参加人数が少なかった。話し合いの材料がなくても、各自関連する課題や材料を内心お持ちのはずであるから、出来る限り参加いただきたい。

## 今後の流域圏懇談会の予定



### ■第11回川部会 地域部会

※詳細日時はMLにて決定します。

日時：平成30年1月23日(金) 午後

内容：今年度の活動の総括と来年度の活動方針について



### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 調査課 服部

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iinet.or.jp)までお送りください。

